

愛着の縦断研究とその臨床応用への寄与について

On the Longitudinal Studies of Attachment and Their Contributions to Clinical Application

金 谷 有 子

KANAYA, Yuko

はじめに

本論の目的は、愛着をキーワードに理論と研究そして臨床応用についての現状を可能な限り概観し、新たな視点を得ることである。そのために現在手に入る愛着の実証的研究に関する最新の主要文献を精査し、そこから得られた知見を臨床応用という観点からまとめていくことにした。まず愛着理論における重要概念について改めて考えてみる。次に愛着理論に基づくいくつかの縦断研究の報告を概観していく。さらに愛着の安定・不安定の意味とその後の研究による愛着の体制化とその機能の問題を紹介していく。それらの研究の成果が愛着理論や愛着の査定法を発展させていった点を概観していく。最後に愛着理論にもとづく介入研究と臨床応用の問題を考えていきたい。

1. 愛着理論における重要概念とその発展

愛着理論 (Bowlby,1969/1982;1973;1980) によると愛着システムは、持続的に愛着対象との近接性や身体的・心理的な接近可能性をモニタリングしながら作動しているという。

安全基地としての愛着対象への接近行動と安全基地から与えられる安全感を基に行われる探索行動とのバランスが安定した愛着から生まれると考えられる。子どもが何らかの脅威に出遭った場合に、愛着対象へ近接を求め、情緒的に利用可能で応答的な愛着対象から支持や慰め、安心、安堵が与えられる。愛着対象は安全な避難場所として、また探索や遊びを促進する安全基地として機能する。Bowlby (1973) は自身の臨床活動の中でこのような愛着システムを観察した。愛着対象との相互作用によって心の中にこれらの相互作用についての心的表象、自己や他者についての内的作業モデル (Internal Working Model: IWM) が内在化すると仮定している。このIWMの概念は愛着理論の土台といえる。幼いころに発達した表象モデルはその後も影響力を維持し続けると仮定されている。外在のもしくは内在化された愛着対象に頼る能力は、安定した愛着の重要な結果であり、それによって社会的スキルや感情制御のスキルの漸次的な獲得が可能になり、これらが組み合わさることで、適応的で自律的なパーソナリティが生み出されるという (Bowlby, 1988)。

Bowlby の安全基地の概念を実証的に研究

キーワード: 愛着、愛着理論、縦断研究、臨床応用

Key words : attachment, attachment theory, longitudinal studies, clinical application

し、乳児の愛着測定法であるストレンジ・シチュエーション法（SSP）を開発したのはAinsworth(1978)である。SSPを用いた数多くの縦断研究が行われ、乳幼児期の愛着安定、不安定パターンの連続性の問題について実証データが出されてきている。また愛着関係におけるIWMの発達や査定法はBrethertonら(1990, 1999, 2003)やMainら(1984, 1985, 1998, 2003, 2005)によって研究されている。Mainらは半構造化面接による成人の愛着査定法（AAI）を開発した。この査定法はMainが「無意識を驚かす」と表現しているように、長い間疎遠であった愛着理論と精神分析との接点を与えてくれた方法である（Fonagy, 2001; フォナジー、2008）。AAIによって得られた実証データによって愛着の世代間伝達や臨床的側面を検討する研究もある（Fonagy et al., 1991; 1995; 1998）。

Bowlbyの愛着理論は、愛着行動システムの実証的な比較行動学や認知科学、発達心理学との出会いを通して人の生涯にわたるパーソナリティ発達についての包括的な一大理論へと今なお成長を続け多方向的に発展しているという指摘もされている（遠藤、2007）。このような愛着理論について最新の文献および研究領域で主要な文献を紹介しながら今後の研究方向や臨床への示唆を考えていきたい。1999年に刊行されたCassidy & Shaver編の*Handbook of Attachment*は愛着研究とその臨床的研究を網羅している。この著書を踏まえながら、本報告では2000年以降刊行されている文献を参考に考察していく。

2. 愛着理論に基づく実証的研究からの知見

(1) 愛着の縦断研究

発達心理学の領域でボウルビイの愛着理論に基づいた実証研究が発展してきた。発達心理学における愛着研究の中心は縦断研究にあるといえる。これまでに数多くの縦断研究の結果が報告されてきており、それらから愛着の安定・不安定の連続性や世代間伝達の問題について貴重な知見が得られている。乳児の愛着分類と親のAAIとの関連が発見され（Main et al., 1985）、その後も愛着の質が親から子どもへ伝達するのかがどうか、どのように伝達するのかが研究されている。後述する精神分析の臨床分野についてフォナジー(2008)は、無秩序・無方向型のDタイプという新しい愛着タイプの発見や表象レベルの愛着評価法であるAAIが開発されたことがこれまで疎遠であったボウルビイの愛着理論と精神分析をつなげることになったと指摘している。AAIから得られた母親の内省機能とSSPによる乳児の愛着分類との間に関連性を見出している。

1970年代頃以降から愛着の縦断研究が盛んに行われてきたが、ここではGrossmannら(2005)を参考に6つの縦断研究を紹介したい。Mainらによるバークレー縦断研究、Sroufeらによるミネソタ縦断研究、Grossmann & Grossmannによるビーレフェルトとレーゲンスブルグにおける縦断研究、Steele & Steelによるロンドン親子プロジェクト、Sagiらによるハイファ縦断研究、Crowell & Watersによるストーニブルック成人愛着関係プロジェクトである。

Mainら(2005)によるバークレー縦断研究は親子愛着関係の個人差の縦断研究である。1985年までにはバークレーではいくつかの愛着査定法の開発がなされていた。それらの方法をもとに研究が進められた。対象は189家

族で、乳児期にはSSPを実施し、愛着の安定・不安定の分類に基づきその後の発達も追跡研究していった。6歳ではKaplanによるSeparation Anxiety Test (SAT)を実施し愛着の査定は行動レベルから表象レベルに移って行った。対象者が19歳の時にもAAIを実施した。この20年にわたる縦断研究では、愛着の安定性、連続性、愛着の機能の同質性、愛着の予測性などが議論されている。

Sroufeら(2005a, 2005b)によるミネソタ縦断研究は1970年代に始まり、認知的、社会的、情緒的発達に関して多面的なアセスメントが行われた。愛着の発達プロセスと愛着の安定性の意味に言及している。発達とは非線形的で、階層的で、多層的なものという観点から愛着についても広い視点をもって研究がなされている。共同研究者のEgelandは虐待の原因と結果に関心があり、愛着のDタイプの研究を行っている。また同じく共同研究者のCarlson(2004)も1990年以降Dタイプに興味を持ち、乳児期から児童期、青年期までの縦断データの分析を行っている。

Grossmannら(2005)によるドイツにおける縦断研究は、ビーレフェルトとレーゲンスブルグという2地域で行われた。ビーレフェルト・プロジェクトは1976年に新生児期から開始され、2000年までの追跡結果が報告されている。対象者は49家族で、24カ月、36カ月では母親と父親への愛着を測るためSSPを実施、母親や父親の感受性を測る尺度も用いている。6歳と10歳時にはSAT、両親へのAAIを実施している。16歳時には家庭訪問をし、AAI以外にも両親との関係についての面接調査や友だち関係やライフイベントについて質問紙調査を行っている。22歳においては実験室で16歳時と同じ測度を使用している。レー

ゲンズブルグ・プロジェクトでもほぼ同じ方法で51家族のデータ収集を行っている。この研究では安定型の愛着とその後の機能の水準や発達の良さとの相関が見出されている。それによると、安定型の青年は、不安定型の青年よりも愛着対象とのネガティブな経験についてどう思うかを問われたとき、ポジティブな防衛(内省性、利他性、ユーモアなど)をすることが有意に多かったという。

Steele & Steel(2005)によるロンドン親子プロジェクトは1987年から開始され継続中であるが2006年までのフォローアップが報告されている。妊娠中から出産後の乳児期の段階では親になる前でのAAI、子どもが1歳、1歳半の段階でのSSP、5歳から6歳の段階ではマッカーサー・ストーリー・ステム・バッテリー、心の理論、言語性IQ、親のAAI、11歳から12歳では友だちや家族に関する面接、情緒面のテスト、言語性IQ、16歳では16歳本人へのAAIやきょうだいとの関係についての質問紙などをそれぞれ実施している。この研究は愛着理論に基づいており、またその目的は情緒的問題や障害をもつ個人や家族を理解し、援助することを目指して行われている。この研究では臨床的志向をもって参加している研究者が多いという。

Sagiら(2005)によるハイファ縦断研究は1979年から開始され2001までのフォローアップの成果が報告されている。キブツにいる11カ月から14カ月の乳児に父母およびメタベレットへの愛着をSSPによって査定している。子どもたちが5歳になったときには幼稚園での遊びの観察、Q-Sortによる愛着査定、WPPSIによるIQ測定などを行っている。11歳から12歳時にはキブツでSAT、WISC-R、自己認知や適応に関する質問紙、家族インタラ

クション、ライフイベントなども調べている。17、18歳時にはキブツにおいてAAI、自己認知、否定的ライフイベント、睡眠障害などを調べている。20、21歳時には自尊心に関する質問紙と人生に対する見方の質問紙を実施している。どの段階においても対象児は70人前後である。

Crowell & Water (2005) によるストニブルック成人愛着関係プロジェクトは、1990年から2001年にかけてニューヨーク州のロングアイランドのサフォーク群で行われた。結婚前から、結婚後子どものいない段階から子どもが3、4歳になるまでを追跡研究している。250組についてAAI、CRI (Current Relationship Interview; Crowell & Owens, 1996)、結婚の評価やライフイベント、子どもとの自由遊び時の安全基地としてのサポートの仕方などを調べている。この研究では愛着理論におけるプロトタイプ仮説つまり乳児期の親子愛着関係の質が後の愛情関係の原型になっているという仮説に挑んでいる。研究結果の報告によると、AAIで安定愛着の人の96%は安定性を保っており連続性を示したという。安定表象をもっている人はそれを失うことはほとんどないという結果である。一方、不安定愛着では76%がそのままであった。残りの24%は変化したことになる。この変化した新しい安定愛着の人は安定した特定の愛着表象を示し、現在の関係についてもより肯定的な感情を示したという。また高い教育や早くから親から離れて生活した場合の方が変化の機会がつくれやすいとも言っている。

(2) 愛着の縦断研究と臨床応用

Bowlby (1973) は「分離不安」を出版するころまでにすでに不安定な愛着と特定の精

神病理との間に関連があるのかどうか疑問をもっていったという (ブリッシュ、2008)。以後、愛着と精神病理との関連を探求する縦断研究も多くなされている。例えば、Greenbergら (1990, 1991, 1997) は、不安定型の愛着と反社会的行動などの行為障害との間の関連を検討している。Fonagyら (1995) は、AAIの未解決型と子どもの非体制愛着 (D) 型と境界性パーソナリティ障害とを関連づけている。

不安定 - 無秩序/無方向 (D) 型はMain & Solomon (1986, 1990) が発見したが、その後このタイプと精神病理に関連した探究が多くなされている。幼少期に虐待やネグレクトをされた子どもは、そうでない子どもより不安定な愛着を示す頻度が高いという報告が多く出されている。また非体制 (D) 型も被虐待児に多いことも明らかにされてきている。van IJzendoornら (1999) は、児童期初期の非体制型愛着のメタ分析を行い、虐待する親の群の48%の子どもがD型であることを見出している。非臨床群ではその割合は15%位と報告されている。ミネソタ縦断研究のハイリスクサンプルにおけるD型の割合は、18か月では43%であった (Carlson, 1998)。

不安定 - 無秩序/無方向 (D) 型は密接に臨床群に関わることが示されてきている。Sroufeら (2005) は非体制型の愛着が精神病理の強力な予測変数であると述べている。Lyons-Ruthら (1999) は、愛着対象の示す怖がらせる行動や怖がっている行動と混乱した情緒的コミュニケーション行動から乳児の非体制型を予測することができると指摘している。このような親の行動は、未解決の対象喪失や悲嘆と関連があるとも指摘している。Liotti (1992) は無秩序・無方向な行動と解離症状とのつながりを検討している。ミネソ

タ縦断研究では幼児期の非体制型は、青年期の解離症状と有意に関係していたと報告されている (Weinfield et al, 1999)。Greenberg (1999) は反抗挑戦性障害の臨床群の子どもの80%近くが不安定型愛着を示し、無秩序／無方向 (D) 型が発達する中で変容した統制型の分類が、他の群に比べて非常に高い率を示していたと報告している。

多くの縦断研究の知見から愛着の安定・不安定は、子どもの機能がどのように発達するかを確率論的に予測するための指標として受け入れられるようになっている。しかし、どの領域が愛着の安定性と関連し、それがどのようなメカニズムによっているかはまだ十分に明らかになっていない。また世代間伝達研究でも、連続性は有意であるにもかかわらず、生後1年から青年期にかけて愛着パターンの変化が行動レベルでも表象レベルでも観察されている。ブリッシュ (2008) は、早期の愛着の質がその後の発達の単独の決定因ではなく、複数要因的、循環的、交互作用モデルを想定すべきと指摘している。愛着表象の発達には、親自身の愛着方略、社会的な影響要因 (家庭環境や結婚の質)、親のソーシャル・サポート・ネットワークなどのさまざまな外的要因や内的要因がかかわってくると考えられる。この分野での実証研究の必要性も指摘されている。またブリッシュ (2008) は、愛着の安定・不安定は精神病理学的症状の発達に関する防御要因や危険因子として考えられると述べている。安定した愛着は、ストレスに対する脆弱性の閾値を高くし、不安定な愛着はその閾値を低めるとも述べている。

ブライア&グレイサー (2008) によると、愛着理論にもとづいた介入研究とは、愛着の安定性をより高め、最適ではない愛着行動や

愛着の体制化を少しでも改善させることを目的とした研究である。子どもの愛着の安定性の主要な規定因としての養育者の感受性があることは前述したが、この感受性を高め、子どもと養育者とのやりとりの質を高めることを目的で行われた研究にはその有効性が認められているものもある。Cassidyら (2005) は愛着の安定性の先行要因と早期の介入および介入研究について論じている。Dozierら (2001) は、里子養育を受けている幼児にとっての愛着について、里親の愛着の心の状態と里子の愛着の質との一致性から検討している。里子の非体制型愛着は、自律型の里母の子どもでは21%、非自律型の里母の子どもでは62.5%で、有意差があった。生後1年以内に里子になった場合、新しい養育者が利用可能である程度に応じて、愛着行動を体制化できるということが示唆された。Hodgesら (2003; 2005) やSteel (2003) は、被虐待児の語りから、養子縁組措置の1年後と2年後の愛着表象の変化を検討している。愛着関係に関する子どもの内的作業モデルが変容したというには程遠いこと、新しいポジティブな表象を発達させるとき、既存のネガティブな表象と対抗させながら、表象を発達させること、古い期待や知覚は脆弱性として残ること、これらが状況に応じて簡単に活性化されることがあることなどが結論として述べられている。

3. 愛着理論に基づく愛着査定法の開発

本節では愛着の縦断研究や愛着の介入研究において重要な方法である愛着の査定法について述べていきたい。愛着の査定法として、非常に広範に用いられており、高く評価された手続きは、Ainsworthら (1978) が開発したStrange Situation法 (SSP) である。乳幼

見期（9~20ヵ月児）の母子分離と再会の実験場面での行動がビデオ録画され、乳幼児の愛着対象への接近や回避行動また探索行動を評定し、愛着のパターンを分類していく方法である。幼児期の愛着査定法としては愛着Qソート法、分離不安テスト（Separation Anxiety Test：SAT）、Brethertonら（1990）によって開発されたMacArthur Story Stem Battery（MSSB）、Hodges（1990）によって考案されたストーリー・システム査定プロフィール（Story Stem Assessment Profile：SSAP）などがある。MSSB（3~8歳）やSSAP（4~8歳）は、親子関係の文脈で葛藤や情動が絡む出来事などを扱ったストーリーを絵や人形で子どもに提示し、子どもはそれを手がかりにそのお話の残りを完成していくナラティブ技法である。子どもはお話を語っていくなかで自分の過去の経験（内的作業モデル）から期待、予想、情動などを投影するのだと考えられる。

成人の愛着を検証し評価する技法としては成人愛着面接（Adult Attachment Interview：AAI）がある。AAI（George et al.,1996）は半構造化面接で、面接者は決まった手順で質問していく。標準質問として親との関係に関する一般的なことや、それを裏づけたり、矛盾したりする特定の自伝的記憶、親との現在の関係に関することなど15の項目あり、各質問にはそれぞれ重要な追加の質問（プローブ）がある。録音・録画された面接は、逐語録に書き起こされる。語りの内容だけでなく、語りの形式を特別に重視し、子ども時代についての語りに焦点を当てたプロトコルのコーディング・システムが作られている（Main & Goldwyn, 1984, 1998, 2003）。このコーディング・システムを用いることによって5つの

カテゴリー分類（自律-安定型、拒絶-不安定型、とらわれ-不安定型、未解決-非体制型、分類不能）が得られる。この分類は乳児期のSSPでの安定（B）型、回避（A）型、アンビバレント（C）型、無秩序-無方向（D）型に対応している。AAIは、信頼性、妥当性、予測的妥当性については良好である。臨床的有用性は高いのだが、面接や評定に時間がかかり、実施のための専門的トレーニングも時間と費用がかかるため、臨床家が使用しにくいという指摘もある。

AAIはより低い年齢集団をカバーできるように拡張されてきている（フォナジー、2008）。7~12歳に適用可能な子ども愛着面接（Child Attachment Interview：CAI）や10~14歳に適用可能な児童青年期用愛着面接（Attachment Interview for Childhood and Adolescence：AICA）が考案されている。CAI（Target et al., 2003）は親との関係性について子どもに内省させようとするもので、子どもの安全が保護されていない場合には、子どもの防衛や対処メカニズムを脅かすものになると指摘されている（プライア&グレイサー、2008）。親発達面接（Parent Development Interview：PDI）はAAIと同じように関係の内的作業モデルを査定することを意図している。（Fonagy et al., 1998; Slade et al., 2004）。

4. 愛着理論と臨床

精神分析的な精神医学者でもあるBowlbyの愛着理論は精神分析の分野では全く無視されてきたといえる。表象レベルの査定法であるAAIの出現によって愛着理論と精神分析を統合する研究者が出てきた。フォナジー（2008）自身もその一人であるが、彼はLyons-Ruth、Jeremy Holmes、Arietta Slade、

Alicia Liebermanの4人について、その理論的および臨床的研究を紹介している。Lyons-Ruthは無秩序/無方向(D)型の性質、原因、および結果に関する先駆的研究をおこなった(Lyons-Ruth et al., 1999)。彼女は実証科学と精神分析理論の両方の進展に同時に関わっている、数少ない精神分析家の一人であるとフォナジーは評価している。Jeremy Holmes(1998; 2000)は、愛着理論とクライン派との関連性を示唆しており、精神分析と愛着理論の統合に関する彼の寄与は多面にわたっている。また愛着理論を心理療法の中心に捉えており、愛着に基づいた簡易的介入(brief attachment based intervention: BABI)を提案している。彼の治療的アプローチにおける心理的变化のモデルは、「語りを通じた治療」を愛着理論の概念と結びつけている。Arietta Sladeは、精神分析的な心理療法の実践と愛着理論の実証研究とを結びつけ、愛着理論と子どもへの臨床実践に関する研究との関連性を考察している(Slade, 1999a,; 2000)。治療における記憶へのアプローチはAAIの開発者であるMainの示唆に負うところが多いという。語りにおける失敗や欠落の特徴が、患者の現在の障害や不適応の原因となっているかもしれず、子どもの頃の経験がどのようなものだったかについて、ヒントを与えてくれると主張している。Alicia Liebermanはフライバーグ(Fraiberg, 1980)が確立した、人生初期の3年間における親子関係の障害を扱う乳児-母親心理療法の流れを引き継いでいる。乳児-母親心理療法において、養育のための内的作業モデルは、治療者の肯定的関心、親の欲求への注意深さ、共感的な応答性によって変化すると考える。内的作業モデル概念は、親が経験を理解するための助けとなるとも

に、乳児の内的経験がどのようなものであるかを理解するうえでも活用される(Lieberman, 1993; 1999)。

愛着障害は、人生の早期に子どもが養育者との間で非常に過酷な経験をした後にしか起こらないという点についてはコンセンサスが得られている。愛着障害の国際分類法には、WHO(1992)による国際統計分類のICD-10とアメリカ精神医学会(2000)による精神障害診断統計マニュアルであるDSM-IV-TRとがある。ICD-10には児童期の反応性愛着障害(Reactive Attachment Disorder of Childhood: RAD)と児童期の脱抑性愛着障害(Disinhibited Attachment Disorder of Childhood: DAI)が記載されている。DSM-IV-TRには幼児期・児童期初期の反応性愛着障害(Reactive Attachment Disorder of Infancy or Early Childhood: RAD)とその2つの下位タイプ(抑制性と脱抑制性)が記載されている。愛着障害の研究では、愛着障害の査定にICD-10やDSM-IV-TRの基準やSmyke & Zeanah(1999)による愛着障害面接(Disturbance of Attachment Interview: DAI)が利用されている。愛着障害の分類には弁別された愛着対象がないという基準があるが、もう一つの基準についての提案している研究がある(Zeanah & Boris, 2000; Zeanah et al., 1993; Boris et al., 2004)。最近の諸研究の結果を検討したプライアとグレイサー(2008)は愛着障害の研究法の問題点として、愛着行動を査定するタイミング、愛着行動を査定する際の情報源の信頼性、主要な養育者に対する愛着行動の査定、ある一人の養育者と子どもとの関係が愛着関係であるかどうかの確かさ、サンプルサイズといった点をあげている。

おわりに

Ainsworthによる行動レベルでの愛着の個人差評価法の開発、Mainによる新しい愛着のタイプ（無秩序・混乱型：Dタイプ）の発見が臨床領域に与えた影響は大きい。虐待の問題や精神病理の解明の研究に発展していつている。また表象レベルの愛着評価（AAI）が開発されたことによってBowlbyが考えていた愛着の生涯にわたる影響の研究ができるようになったといえる。AAIの開発はその後成人期の愛着研究の分野や、ソーシャルワークの実践分野（ハウ, 2001；Howe, 2005）にも影響を与えている。

参考文献

- Ainsworth, M. D., Blehar, M. C., Waters, E. & Wall, S. (1978). *Patterns of Attachment*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associations.
- Boris, I., Hinshaw-Fuselier, S., Smyke, A., Scheeringa, M., Heller, S., & Zeanah, C. (2004) Comparing criteria for attachment disorders: establishing reliability and validity in high-risk samples. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 43, 568-577.
- Bowlby, J. (1969). *Attachment, vol.1 of Attachment and loss* (second edition, 1982).. London: Hogarth Press; New York: Basic Books; Harmondsworth: Penguin (1971).
- Bowlby, J. (1973). *Separation: anxiety and anger, vol.2 of Attachment and loss* London: Hogarth Press; New York: Basic Books; Harmondsworth: Penguin (1975).
- Bowlby, J. (1977). The making and breaking of affectional bonds, *British Journal of Psychiatry*, 130: 201-10 and 421-31; reprinted 1979, New York: Methuen; London: Tavistock.

- Bowlby, J. (1980). *Loss: sadness and depression, vol.3 of Attachment and loss* London: Hogarth Press; New York: Basic Books; Harmondsworth: Penguin (1981).
- Bowlby, J. (1988). *A secure base: Parent-child attachment and healthy human development*. Basic Books.
- Bretherton, I., & Munholland, K.A. (1999). Internal working models in attachment relationships: A construct revisited. In J.Cassidy & P. Shaver (Eds.), *Handbook of attachment: Theory, research, and clinical applications*. New York: Guilford.
- Bretherton, I., and Oppenheim, D. (2003) The MacArthur Story Stem Battery: development, administration, reliability, validity, and reflections about meaning. In R.Emde, D.Wolf and D.Oppenheim (Eds.), *Revealing the Inner Worlds of Young Children: the MacArthur Story Stem Battery and Parent-Child Narratives*. Oxford: Oxford University Press.
- Bretherton, I., and Oppenheim, D., Buchsbaum, H., Emde, R. & the MacArthur Narrative Group (1990) *MacArthur Story Stem Battery (MSSB)*. Unpublished manual, Waisman Center, University of Wisconsin-Madison.
- Bretherton, I., and Ridgeway, D. (1990) Story completion task to assess children's internal working models of child and parent in the attachment relationship. In M.Greenberg, D.Cicchetti & E.Cummings (Eds.), *Attachment in the Preschool Years: Theory, Research, and Intervention*. Chicago: University of Chicago Press.
- Bretherton, I., and Ridgeway, D. and Cassidy, J. (1990a) Assessing internal working models of the attachment relationship, In M.Greenberg, D.Cicchetti & E.Cummings (Eds.), *Attachment in the Preschool Years: Theory, Research, and Intervention*. Chicago: University of Chicago Press.

愛着の縦断研究とその臨床応用への寄与について

- Brish, K. (2002) *Treating Attachment Disorders: From Theory to Therapy*. New York: Guilford.
- ブリッシュ, K.H. 数井みゆき・遠藤利彦・北川恵 (監訳) 2008 アタッチメント障害とその治療理論から実践へ 誠信書房
- Carlson, E. (1998) A prospective longitudinal study of attachment disorganization/disorientation. *Child Development* 69,4,1107-1128.
- Carlson, E., Sroufe, A., Egeland, B. (2004) The construction of experience: A longitudinal study of representation and behavior. *Child Development*, 75, 66-83.
- Cassidy, J. & Shaver, P. (1999) *Handbook of Attachment: Theory, Research and Clinical Applications*. New York: Guilford Press.
- Cassidy, J., Woodhouse, S., Cooper, G., Hoffman, K., Powell, B., & Rodenberg, M. (2005) Examination of the precursors of infant attachment security: implications for early intervention and intervention research. In L. Berlin, Y. Ziv, L. Amaya-Jackson & M. Greenberg (Eds.), *Enhancing Early Attachments: Theory, Research, Intervention, and Policy*. New York: The Guilford Press.
- Crowell, J. & Owens, G. (1996) *The Current Relationship Interview and scoring system*. Unpublished manuscript. State University of New York at Stony Brook.
- Crowell, J. & Waters, E. (2005) Attachment representations, secure-base behavior, and the evolution of adult relationship project. In Klaus E. Grossmann, Karin Grossmann, Everett Waters (Eds.) 2005 *Attachment from Infancy to Adulthood: The Major Longitudinal Studies*. New York: Guilford Press.
- Dozier, M., Stovall, K., Albus, K. & Bates, B. (2001) Attachment for infants in foster care: the role of caregiver state of mind. *Child Development*, 72, 1467-1477.
- 遠藤利彦 2007 アタッチメント理論とその実証研究を俯瞰する 数井みゆき・遠藤利彦 (編著) 2007 アタッチメントと臨床領域 1-58 ミネルヴァ書房
- Fonagy, P., Steele, M., Steele, H. (1991). Maternal representations of attachment during pregnancy predict the organization of infant-mother attachment at one year of age. *Child Development*, 62, 891-905.
- Fonagy, P., Steele, M., Steele, H., Leigh, T., et al. (1995). Attachment the reflective self, and borderline states: the predictive specificity of the adult attachment interview and pathological emotional development. In S. Goldberg, R. Muir, and J. Kerr (Eds.), *Attachment Theory: Social, Developmental and Clinical Significance*. Hillsdale, NJ: Analytic Press.
- Fonagy, P., Target, M., Steel, H., & Steel, M. (1998) *Reflective Functioning Manual, Version 5.0, for Application in Adult Attachment Interviews*. University College, London.
- Fonagy, P. (2001). *Psychoanalysis and Attachment Theory*. London: Karnac.
- フォナギー, P. 遠藤利彦・北山修 (監訳) 2008 愛着理論と精神分析 誠信書房
- Fraiberg, S. (1980) *Clinical Studies in Infant Mental Health*. New York: Basic Books.
- George, C., Kaplan, N., & Main, M. (1996) *Adult Attachment Interview Protocol (Third Edition)*. Unpublished manuscript, University of California, Berkeley.
- Goldberg, S. (2000) *Attachment and development*. London
- Greenberg, M. (1999) Attachment and psychopathology in childhood. In J. Cassidy & P. Shaver (Eds.), *Handbook of Attachment: Theory, Research and Clinical Applications*. New York: Guilford Press.
- Greenberg, M., Cicchetti, D., & Cummings, E. (1990) *Attachment in the preschool years*. Chicago: University of Chicago Press.
- Greenberg, M., DeKlyen, M., Endriga, M., & Speltz, M. (1991) Attachment security in preschoolers with

- and without externalizing behavior problems: A replication. *Attachment and Developmental Psychopathology*, 3, 413-430.
- Greenberg, M., DeKlyen, M., Endriga, M., & Speltz, M. (1997) The role of attachment processes in externalizing psychopathology in young children. In I. Atkinson & K.J. Zucker (Eds.), *Attachment and psychopathology*. New York: Guilford Press.
- Grossmann, K.E., Grossmann, K., & Waters, E. (2005) *Attachment from Infancy to Adulthood*. New York: Guilford Press.
- Grossmann, K., Grossmann, K., & Kindler, H. (2005) Early care and the roots of attachment and partnership representations: The Bielefeld and Regensburg Longitudinal Studies. In Grossmann, K.E., Grossmann, K., & Waters, E. (Eds.), *Attachment from Infancy to Adulthood*. New York: Guilford Press.
- Hesse, E. (1999) The Adult Attachment Interview. In J.Cassidy & P. Shaver (Eds.), *Handbook of Attachment: Theory, Research and Clinical Applications*. 395-433. New York: Guilford Press.
- Hesse, E. & Main, M. (2000) Disorganized infant, child and adult attachment: collapse in behavioral and attentional strategies. *Journal of the American Psychoanalytic Association*, 48, 1097-1127.
- Hodges, J. (1990) *Rating Manual for the 'Little Pig' Story Stem Assessment*. Unpublished manuscript. The Anna Freud Centre, London.
- Hodges, J., Steel, M., Hillman, S., Henderson, K., & Kaniuk, J. (2003) Changes in attachment representations over the first year of adoptive placement : narratives of maltreated children. *Clinical Child Psychology and Psychiatry*, 8, 351-367.
- Hodges, J., Steel, M., Hillman, S., Henderson, K., & Kaniuk, J. (2005) Change and continuity in mental representations of attachment after adoption. In D. Brodzinky and J. Palactios (Eds.), *Psychological Issues in Adoption. Research and Practice*. Westport, CT: Praeger.
- Holmes, J. (1998) Defensive and creative uses of narrative in psychotherapy: an attachment perspective. In G. Roberts & J. Holmes(Eds.), *Narrative and Psychotherapy and Psychiatry*. Oxford: Oxford University Press.
- Holmes, J. (2000) Attachment theory and psychoanalysis : a rapprochement. *British Journal of Psychotherapy*, 17, 157-180.
- Howe, D. 2005 *Child Abuse and Neglect: Attachment, Development and Intervention*. Palgrave Macmillan
- ハウ, デビット 平田美智子・向田久美子（訳）
2001 ソーシャルワーカーのためのアタッチメント理論—対人関係理解の「カギ」筒井書房
- Lieberman, A. F. & Pawl, J. (1993) Infant-parent psychotherapy. In C.H. Zeanah (ed.), *Handbook of Infant Mental Health*. New York: Guilford.
- Lieberman, A. F. & Zeanah, C.H. (1999) Contributions of attachment theory to infant-parent psychotherapy and other interventions with infants and young children. In J.Cassidy and P. Shaver (Eds.), *Handbook of Attachment.: Theory, Research and Clinical Applications*. London: Guilford Press.
- Liotti, G. (1992) Disorganized/disoriented attachment in the etiology of the dissociative disorders. *Dissociation*, 4, 196-204.
- Lyons-Ruth, K., & Jacobovitz, D. (1999) Attachment disorganization: unresolved loss, relational violence and lapses in behavioral and attentional strategies. In J.Cassidy and P. Shaver (Eds.), *Handbook of Attachment.: Theory, Research and Clinical Applications*. London: Guilford Press.
- Main,M., Kaplan, N., & Cassidy, J. (1985). Security in infancy, childhood, and adulthood: A move to the level of representation. In I. Bretherton & E.Waters (Eds.), *Growing points of attachment theory and research, Monographs of the*

愛着の縦断研究とその臨床応用への寄与について

- Society for Research in Child Development*, Vol.50, 66-106.
- Main, M. & Goldwyn, R. (1984) *Adult attachment scoring and classification system*. Unpublished manuscript, University of California, Berkeley.
- Main, M. & Goldwyn, R. (1998) *Adult attachment scoring and classification system*. Unpublished manuscript, University of California, Berkeley.
- Main, M., Goldwyn, R. & Hesse, F. (2003) Adult attachment scoring and classification system. Unpublished manuscript, University of California, Berkeley.
- Main, M., & Hesse, E. (1990) Parents' unresolved traumatic experiences are related to infant disorganized attachment status: Is frightened and/or frightening parental behavior the linking mechanism? In M.T. Greenberg, D. Cicchetti & E.M. Cummings (eds.), *Attachment in the preschool years*. Chicago: University of Chicago Press.
- Main, M., Hesse, E., & Kaplan, N. (2005) Predictability of attachment behavior and representational processes at 1, 6, and 19 years of age: The Berkeley longitudinal study. In Klaus E.Grossmann, Karin Grossmann, Everett Waters (Eds.) 2005 *Attachment from Infancy to Adulthood: The Major Longitudinal Studies*. New York: Guilford Press.
- Main, M., & Solomon, J. (1986) Discovery of an insecure disorganized/disoriented attachment pattern: procedures, findings and implications for the classification of behavior. In T. Brazelton and M. Yogman (Eds.), *Affective Development in Infancy*. Norwood, NJ: Ablex.
- Main, M., & Solomon, J. (1990) Procedures for identifying infants as disorganized/disoriented during the Ainsworth Strange Situation. In M. Greenberg, D. Cicchetti and E. Cummings (Eds.), *Attachment in the Preschool Years: Theory and Interventions*. Chicago: University of Chicago Press.
- プライア, V. & グレイザー, D. 加藤和生 (監訳) (2008) 愛着と愛着障害 北大路書房
- ロールズ, W.S. & シンプソン, J.A. (編) 遠藤利彦・谷口弘一・金政祐司・串崎昌志 (監訳) (2008) 成人のアタッチメント—理論・研究・臨床 北大路書房
- Sagi-Schwartz, & Aviezer, O. (2005) Correlates of attachment to multiple caregivers in Kibbutz children from birth to emerging adulthood: The Haifa Longitudinal Study. In Klaus E.Grossmann, Karin Grossmann, Everett Waters (Eds.) 2005 *Attachment from Infancy to Adulthood: The Major Longitudinal Studies*. New York: Guilford Press.
- Slade, A. (1999a) Attachment theory and research: implications for the theory and practice of individual psychotherapy with adults. In J. Cassidy and P. Shaver (Eds.), *Handbook of Attachment: Theory, Research and Clinical Applications*. London: Guilford Press.
- Slade, A. (1999b) Representation, symbolization and affect regulation in the concomitant treatment of a mother and child: attachment theory and child psychotherapy. *Psychoanalytic Inquiry*, 19, 824-857.
- Slade, A. (2000) The development and organization of attachment : implications for psychoanalysis. *Journal of the American Psychoanalytic Association*, 48, 1147-1174.
- Slade, A. (2005) Parental reflective functioning: an introduction. *Attachment and Human Development*, 7, 269-281.
- Slade, A., Aber, I., Bresgi, B., & Kaplan, M. (2004) *The Parent Development Interview-Revised*. Unpublished protocol, the City University of New York.
- Slade, A., Belsky, J., Aber, I., & Phelps, J. (1999) Maternal representations of their relationship with their toddlers: links to adult attachment and observed mothering. *Developmental*

- Psychology*, 35, 611-619.
- Slade, A., Grienenberger, J., Bernbach, E., Levy, D. & Locker, A. (2005) Maternal reflective functioning, attachment, and the transmission gap: a preliminary study. *Attachment and Human Development*, 7, 283-298.
- Sroufe, A., Egeland, B., Carlson, E., & Collins, A. (2005a) *The Development of the Person: The Minnesota Study of Risk and Adaptation from Birth to Adulthood*. New York: Guilford Press.
- Sroufe, A., Egeland, B., Carlson, E., & Collins, A. (2005b) Placing early attachment experiences in developmental context: The Minnesota Longitudinal Study. In Klaus E.Grossmann, Karin Grossmann, Everett Waters (Eds.), 2005 *Attachment from Infancy to Adulthood: The Major Longitudinal Studies*. New York: Guilford Press.
- Steele, M., Hodges, J., Kaniuk, J., Hillman, S., Henderson, K. (2003) Attachment representations and adoption : associations between maternal states of mind and emotion narratives in previously maltreated children. *Journal of Child Psychology*, 29, 187-205.
- Steele, H. & Steele, M. (2005) Understanding and resolving emotional conflict: The London Parent-Child Project. In Klaus E.Grossmann, Karin Grossmann, Everett Waters (Eds.) 2005 *Attachment from Infancy to Adulthood: The Major Longitudinal Studies*. New York: Guilford Press.
- Target,M.,Fonagy,P., & Shmuel-Goetz,Y. (2003) Attachment representations in school-age children: the development of the Child Attachment Interview (CAI). *Journal of Child Psychotherapy*, 29, 2, 171-186.
- Toth, S., Maughen, A., Manly, J., Spagnola, M. & Cicchetti, D. (2002) The relative efficacy of two interventions in altering maltreated preschool children's representational models: implications for attachment theory. *Development and Psychopathology*, 14, 877-908.
- van IJzendoorn,M., Schundgel, C. & Bakermans-Kranenburg,M. (1999) Disorganized attachment in early childhood: meta-analysis of precursors, concomitants, and sequelae. *Developmental Psychopathology*, 11, 225-249.
- Weinfield, N., Whaley, G., & Egeland, B. & (2004) Continuity, discontinuity and coherence in attachment from infancy to late adolescence sequelae of organization and disorganization. *Attachment and Human Development*, 6, 73-97.
- Zeanah,C. & Boris, N. (2000) Disturbances and disorders of attachment in early childhood. In C.H.Zeanah (Ed.), *Handbook of Infant Mental Health*. New York: Guilford Press.
- Zeanah,C., Mammen, O.K., & Mrazek, D.A. (1993). Disorders of attachment. In C.H.Zeanah (Ed.), *Handbook of Infant Mental Health*. The Guilford Press. 332-349.
- Zeanah,C.,Smyke, A., Koga, S. & Carlson, E. (2005) Attachment in institutionalized and community children in Romania. *Child Development*, 76, 1015-1028.
- Zeanah, C., & Zeanah, P. (1989). Intergenerational transmission of maltreatment : Insight from attachment theory and research. *Psychiatry, Vol.52*, 177-196.